

日常の注意ポイントと知識

雨漏れ・水漏れ

長時間の雨漏れ・水濡れは、シミ・汚れの原因となりますので、速やかにふき取ってください。またキッチンや洗面台など、水をよく使用する場所には、水切りマットを敷いてください。

キャスター・重量物

テーブルやイスの脚にはゴムキャップをかぶせて、ご使用ください。荷量のかかった状態でキャスター付きのイスやワゴンを動かすと大きなダメージを受けやすいので、カーペットを部分敷きして表面を保護してご使用ください。ピアノや重量物を配置する場合は、敷板を介して重さが分散するように置いてください。

熱

ホットカーペット、温風ヒーターなどの熱が直接当たるような使い方は、目隙や表面割れを引き起こすことがありますので避けてください。これらを使用される場合は耐熱性の高いマットを敷いてご使用ください。

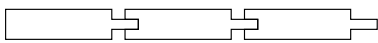
色違い・色の変化

天然木のため一枚一枚、色柄は異なります。製品カタログなど印刷物とは異なる場合がありますのでご了承ください。また天然木は、時間経過と共に少しずつ色合いが変化していきます。日差しでも色合いは変化しますので、光の当たった部分とそうでない部分で色差が大きく生じることもありますので、カーテンなどで遮るなどして、できるだけ直射日光に晒さないようご配慮をお願い致します。

無垢フローリングの特性【湿度との関係性】

無垢フローリングは室内の湿度を一定に保つ事が出来るとともに、その吸放湿により一定量以上の湿度が失われたり、吸湿した場合寸法の変化が起きる場合があります。

(異常な乾燥) フローリングの縮み



室内の湿度が乾燥しすぎています。空調機などの送風が直接あたらないようにしてください。窓を開け、室内を自然の湿度状態にしてください。

(異常な吸湿) フローリングの伸び



室内の湿度が何らかの状態で高くなっています。窓を開け室内を自然の湿度状態にしてください。空調機を使い乾燥させるのも効果的です。

無垢材を使った住宅において、フローリングと湿度との関係は重要です。収縮・割れ・伸びの防止策として湿度45%～60%以内の住環境を保つようをお願い致します。施工後1～2年程度は自然環境により狂いを引き起こす場合がありますが、その後は生活環境に馴染み安定して来ます。

メンテナンスについて

日常のお手入れは、化学雑巾もしくは、乾いた柔らかい布で拭きで十分です。水を使わないようにお手入れしてください。ワックス掛けは、木質フローリング専用の樹脂ワックスをご使用ください。ご使用の際にはワックスをフローリングに直接流さないで下さい。雑巾やモップに含ましたワックスが落ちない程度に絞り、素早く仕上げてください。

おことわり

床材方面に小さな穴が開き、木の粉のような物が出てくる場合があります。これは木部についた、虫害と考えられます。一般的に床材は製造工程で高温処理するため虫や卵は死滅します。その後の流通段階や施工後に外部から虫が飛来して産卵し虫喰いが発生する場合があります。万一発生した場合は、専用薬剤を散布、注入するなど早期対応が必要です。専用薬剤はホームセンターなどでお求めいただけますが、処理専門業者に相談されることをおすすめいたします。

無垢フローリングの施工説明書

施工終了後この説明書をお施主様にお渡しください。

この度は弊社製品をご採用頂きありがとうございました。無垢フローリングは天然木の性質上、保管状況、使用環境によって、反り、割れ、狂いを引き起こす場合があります。お施主様の快適な暮らしのために、必ずこの説明書をお読み頂き、無垢材の特徴をよくご理解の上、施工してください。

① 施工前の注意

- 立て掛けの保管や湿度の高い場所や直射日光の当たる場所での保管は反り、捻れ、スキ、突き上げの原因になるので、必ず避けてください。
- 無垢材の性質上、膨張・収縮を防ぐために開梱した状態で必ず一週間以上放置し、十分施工現場環境に馴染ませてください。
- 床暖房には使用できません。
- 換気口は十分であるかをご確認ください。(建築基準法施工例：外壁の床壁部に、長さ5m以下枚に300 cm²以上の換気口設置)
※床下の換気が十分でない場合、施工後に「濡れ」「突き上げ」「床鳴り」が発生する怖れがあります。
- 根太工法用フローリングです。二重床工法での使用は、施工前に相談してください。

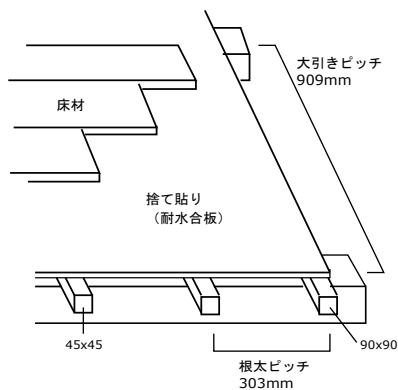
② 仮並べ

- 天然木ですので、貼り始める前に仮並べをし、色、柄のバランスをとって施工してください。
- 極端に色や柄がおかしいもの、その他商品に関してお気づきの点があれば、必ず貼る前にご相談ください。施工後の返品・交換には応じかねます。

③ 割り付け

- 極端に小幅材がこないよう、貼り込み前に割り付けを行ってください。
- 下地合板のジョイント部とフローリングのジョイント部がかさならないように割り付けをしてください。

④ 下地施工



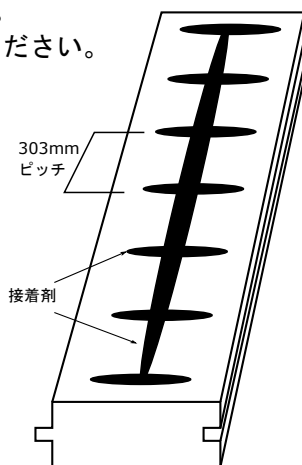
※床下の湿気が多い場合は、必ず0.1mm以上の防水シートを 下地合板と根太の間、もしくは床下土壌の上に敷いて防湿対策をしてください。

- 大引きは90mm 角以上、根太は45mm 角以上の乾燥剤を使用し、プレーナーで平滑に仕上げてください。
- 大引きは間隔は3 尺、根太は1 尺(303mm)とし、レベル(水平)を出して施工してください。
- 必ず合板の捨て貼りをし、合板は12mm以上の耐水合板を使用してください。又、捨て貼り合板の間は、2 ~ 3mmあけて施工してください。尚、床下の湿気が多い場合は0.1mm厚以上の防水シートを根太と捨て貼り合板の間にしき込んで施工してください。
- フローリングは根太と直交するように施工し長手方向のジョイントは根太上に来るようにしてください。

⑤ 貼り込み (接着剤の塗布)

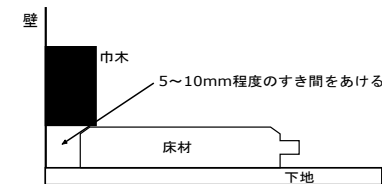
- 施工は必ず接着剤と釘併用で行ってください。
- 貼り込みは、きつく締め付けると、無垢材の性質上、反り、突き上げの原因となります。
- 実を強く叩き込み過ぎると、無垢材の性質上、膨張時に反りが発生する場合があります。必ず「スペーサー」を使用し、ジョイント部にクリアランスをとってください。
- 接着剤は、ウレタン樹脂系接着剤を使用してください。
※酢酸ビニール系、木工用ボンド等は使用しないでください。
- 接着剤は、床材裏面に長手方向は1本、短手方向は303mmピッチでビート状塗布してください。その際接着剤は、点付けではなく、太く線状に塗布してください。
- 接着剤を塗布する際は、接着剤がサネ部分に入り込まないように注意してください。サネ部分まで接着剤が入ると隣のフローリングと一体化したような状態になり、大きな隙や突き上げの原因になります。

※接着剤が床表面についたらすぐに拭き取ってください。接着剤は硬化すると取れません。



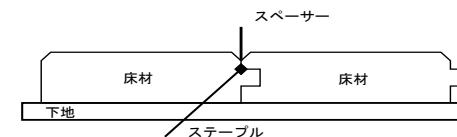
⑥ 壁際の処理

- 壁際は5~10mmのすき間をあけて施工し、巾木、もしくはエキスパンションゴムなどで隠してください。



⑦ フロア用ステープルで固定

- 長さ38mm以上のフロア用ステープルで、斜め45°の角度で300mmピッチで打ち、ステープルの頭は沈めるようにしてください。
- ステープルを立てて打つと、オスザネが破損し、メスザネが入りにくくなります。またステープルをねかしすぎると、表面にフクレがおこる場合があります。
- ステープルは、木口部分に1ヶ所、下地材の継ぎ目部分には2ヶ所打ってください。
- 長手方向の両端は端より50mm程度内側に打ってください。



⑧ はき出し窓辺部・敷居おさまり

- はき出し窓サッシへの納め、又敷居(同面)納めの場合は必ずクリアランスをとり、コーキング処理してください。

⑨ 養生

- 施工後は表面保護のため、木屑・砂・ゴミを完全に除去し、養生シートなどで隙間なく全面養生してください。**その際フローリングに直接養生テープを使用することを避けてください。**フローリング表面の塗装剥離を起こす恐れがあります。
- 施工中に雨の吹き込みによりフローリングの表面を濡らすと、突き上げや表面化粧板のハガレやシミの原因になるので、ご注意ください。

免責事項

- 無垢フローリングを施工、又は使用を決定される前にお施主様に天然無垢材の性質(長所/短所)を十分説明、理解して頂いた上でご使用してください。
- 天然無垢素材を使用しているため、特有の色ムラ、柄の違いがあるので、ご使用前に十分ご理解の上施工施工してください。品質以外の原因での返品・交換はお受けいたしかねます。
- 商品開梱時に品質上の問題が見つかった場合は施工せずに、7日以内に弊社にご連絡してください。施工後のクレームは原則としてお受けいたしかねます。